氏　名（本籍）	： 阿　部　智　美（宮城県）		
学 位 の 種 類	： 博　士　（　歯　学　）	学 位 記 番 号	： 歯　博　第　8　0　3　号
学位授与年月日	： 2018 年 3 月 27 日	学位授与の要件	： 学位規則第４条第１項該当
研 究 科 ・ 専 攻	： 東北大学大学院歯学研究科（博士課程）歯科学専攻		
学 位 論 文 題 目	： 医療系大学生の社会関係資本と社会的スキルによる精神的健康との関連		
論 文 審 査 委 員	： （主査）教授　五十嵐　　薫 教授　小　坂　　健　　准教授　相　田　　潤		

論文内容要旨

目的：近年，日本の若者は自殺につながる精神的健康問題を抱えている。また，医療系大学生においても，基礎教育での臨床実習や卒業後 の臨床現場での 精神的健康問題について 報告されている。そこで，本研究では，医療系大学生の精神的健康に関連する要因の一つとして，人とのつながりを資本と捉える社会関係資本と対人関係を形成・維持するための能力である社会的スキルに着目し，それらの 関連について検討することを目的とした。

方法：医療系大学生 648 名を対象に自記式質問紙調査を実施した。回収された質問紙の有効回答 414 名を分析対象とした。分析は，各変数の記述統計を算出し，探索的因子分析を用いて社会的スキルの質問項目から構成要素を抽出した。次に各変数間の相関係数を算出した。さらに精神的健康度を従属変数，性別，学年，同居形態，親の学歴を調整し，認知的社会関係資本（学校・近所）と構造的社会関係資本（学校･学校外），社会的スキルの各因子を独立変数とした階層的重回帰分析を行った。

結果：本研究の対象者の精神的健康度の中央値は 4.0 で，最適カットオフ点 とされる 5 点以上の学生は 202 名 48.8 %）であった。社会的スキルは因子分析の結果，3 因子が抽出され，問題解決力，関係形成力，柔軟性と命名した。階層的重回帰分析から，学校の認知的社会関係資本（$\beta = -0.12$, $p < 0.05$），問題解決力（$\beta = -0.19$, $< p0.01$）が高ければ精神的健康度が高く，反対に，グループ学習の参加「年に数回」（$\beta = -0.20$, $< p\ 0.01$),「月に数回」（$\beta = -0.15$, $< p\ 0.05$),「週に数回」（$\beta = 0.10$, $p < 0.05$）で精神的健康度の低下に有意な関連がみられた。

結論：医療系大学生の精神的健康に学校の認知的社会関係資本や問題解決力，グループ学習との関連がみられた。社会関係資本の形成や社会的スキルの習得の視点から，医療系大学生の精神的健康を高める方策について示唆が得られた。

審査結果要旨

日本は世界的に見ても自殺者率が高く，特に若者は自殺につながる精神的健康問題を抱えている場合がある。医療系大学生は，必修単位数も多く，実習などの負担もあり，精神的な健康問題についての報告が少なくない。そのため，歯学部を含む医療系大学生の精神的健康に関連する要因を調べるため，人とのつながりを資本と捉えるソーシャルキャピタル（以下 SC）と対人関係を形成・維持するための能力である社会的スキルに着目し，それらの関連について検討することを目的とした。歯学部を含む医療系大学生 648 名を対象に自記式質問紙を配布して調査を実施した。467 名から質問紙を回収した（回収率 72.1％）。欠損値のある回答を除いた有効回答数 414 名を分析対象とした。精神的健康度は K6 を用いた。これは点数が高いほど精神的健康状態が悪いことを示している。認知的 SC は Takakura らの若者の認知的 SC の自己評価尺度を用いている。構造的 SC は先行研究を参考にして，グループ学習やサークル活動などの学校組織の活動とアルバイトなどの学校組織以外の活動について尋ねており，社会的スキルについては，菊池の社会的スキル尺度を用いている。各変数の記述統計を算出し，探索的因子分析を用いて社会的スキルの質問項目から構成要素を抽出し，次に各変数間の相関係数を算出している。精神的健康度 K6 の点数を従属変数として，性別，学年，同居形態，親の学歴を調整因子とし，認知的 SC（学校・近所）と構造的 SC（学校・学校外），社会的スキルの各因子を独立変数とした階層的重回帰分析を行っている。対象者の K6 の中央値は 4.0 で，最適カットオフ点とされる 5 点以上の学生は 202 名（48.8％）であり，社会的スキルは因子分析を行ったところ，問題解決力，関係形成力，柔軟性の 3 因子が抽出された。階層的重回帰分析から，学校の認知的 SC（$\beta = -0.12$, $p < 0.05$），問題解決力（$\beta = -0.19$, $p < 0.01$）が高ければ精神的健康度が高く，反対に，グループ学習の参加「年に数回」（$\beta = 0.20$, $p < 0.01$），「月に数回」（$\beta = 0.15$, $p < 0.05$），「週に数回」（$\beta = 0.10$, $p < 0.05$）となっており，精神的健康度の低下に有意な関連がみられており，回数が少ないほどより関連がみられている。これらの結果から医療系大学生の精神的健康に学校の認知的 SC や問題解決力，グループ学習との関連がみられた。SC の形成や社会的スキルの習得の視点から，医療系大学生の精神的健康を高める方策について示唆が得られた。本研究により，医学系大学生の学生における精神的健康と SC との関係やその改善のための方策の一端を示した意義は大きく，本論文が博士（歯学）の学位に相応しいと判定する。